

なかの



市議会だより

1月号

平成29年1月5日発行
No.47

発行 長野県中野市議会 編集 中野市議会だより編集委員会

●ホームページ <http://www.city.nakano.nagano.jp/> ●Eメール gikai@city.nakano.nagano.jp

謹賀新年 酉年



奈良家の土人形「豊年どり」と「にわとり」

●市政一般質問	決議	意見書案	事件案	予算案	条例案	●議案件数及び議決内容	会期	閉会	開会
47件	1件	1件	4件	6件	9件		15日間	12月14日	11月30日
	可決	可決	可決	可決	可決				

12月定例会

新年のごあいさつ

中野市議会議長 深尾智計



新年明けましておめでとうございます。

市民の皆様には、輝かしい新春を健やかに迎えのことと心からお慶び申し上げますとともに、日頃より、市政発展のために多大なるご理解とご協力を賜り、心からお礼申し上げます。

私は、昨年5月に議長 の要職に就任して以来、市政の発展と円滑な議会運営に努めて参りました。これからも中野市の発展のため、引き続き努力して参る所存でございます。さて、昨年を振り返りますと、日本経済の景気は緩やかな回復基調が続いているとはいえないものの、依然として私たちの暮ら

しにおいては、回復を実感するまでには至らなかつたように思います。

また、熊本地震、鳥取県中部地震、さらには台風による被害など自然災害の多い一年でもありました。幸い本市においては、大きな被害もなく安堵したところでございますが、更なる防災・減災対策の必要性を強く感じるところであります。

新たな年を迎え、少子高齢化の進行や人口減少時代を迎えるなかで、私たちが行うべきことは、社会情勢の変化に対応した新しいまちづくりのために、まずは、これからの10年を見据えた情報分析を確に行い、市民参画による市政運営を行うことであると考えます。

こうしたなか、市では、人口減少に対応し、活力ある地域経済を維持して

いくため、一昨年まとめた中野市まち・ひと・しごと創生総合戦略を現状に即したものに改訂し、さらに、総合的かつ計画的に市政運営を図るための長期的なまちづくりの指針である第2次中野市総合計画を策定しました。議会といたしましても、

安心して暮らせるまちづくりに向け、新たな時代感覚と崇高なビジョンを持つて、二元代表制の一翼を担う責務を全うしていく所存でございます。

また、活力ある議会、開かれた議会を目指し、皆様のご期待に応えられるよう努力して参ります。新春に臨み、市民の皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げますとともに、本年が皆様にとつて実り多く、大いなる飛躍の年となりますことを心より祈念申し上げます。新年にあたってのごあいさつといたします。



高齢者の交通事故と公共交通について

芦澤孝幸

質問 高齢者の事故件数の推移はどうか。

答弁 本市の高齢者の交通事故件数は、平成18年は27件、10年後の平成27年は118件であり、48%減少した。高齢者の運転による交通事故件数は、中高管内において、平成18年は46件、平成27年は38件であり、17%減少した。

質問 高齢ドライバーの免許自主返納を促すためにも利便性の高い公共交通の整備が大切である。今後の公共交通のあり方をどう考えているか。

答弁 「第2次中野市地域公共交通総合連携計画」において、外出目的に合わせたダイヤ設定や利用者の意見を踏まえ、「利用しようと思えば利用できる公共交通網の維持」を基本方針の一つとしている。基本方針に基づき、本年10月から新野地区内及び東山集会所を経由する「ふれあいバス間

山線」の運行を開始し、好評を得ている。今後も継続的に見直しを行い、高齢者にも利用しやすい公共交通網の維持を図っていく。

市長の政治姿勢について

質問 市長は、市政における重点課題として、将来を担う人材の育成を掲げているが、どのように取り組むのか。

答弁 人材育成への考え方については、職員だけでなく、より多くの市民の皆様に参加していただき、継続的にシンポジウムや公開討論会などを開催していく。まちづくりを「自分事」として考えていただく機運を醸成し、幅広い市民の皆様の参画を図っていく。また、人材育成による産業振興策の一つとして、農業経営の知識習得の場を設けることなどについて、その具体化に向け取り組ん

でいく。

スポーツ振興について

質問 県縦断駅伝競走大会で、中野下高井チームは8位と、初入賞を果たした。

また、オリンピック選手への輩出等、市内陸上競技者の活躍が目立っている。練習環境の充実等のため、400メートルトラックを持つ施設の建設はどうか。

と、初受賞を果した。また、オリンピック選手への輩出等、市内陸上競技者の活躍が目立っている。練習環境の充実等のため、400メートルトラックを持つ施設の建設はどうか。

研究したい。その他の質問
農福連携について
教育行政について



信州中野観光センターにおける運営形態の改善について

小林 忠一

質問 中野市の玄関口である信州中野ICは、北信地域の広域観光や農産物の物流ルートの拠点として重要な役割を担っている。信州中野ICに近接する信州中野観光センターの開設目的及び目的の達成状況は。

1の来館者数及び中野市産業公社の業務実績はどうか。
答弁 昨年度は、3万8千709人の方においでいただいた。中野市産業公社では各種自主事業を実施し、土人形の絵付け体験者数は222人、各種イベントは25回開催し、アンテナショップの売上は1千769万余円であった。

質問 (仮称)吉田西条先線は、都市計画の変更候補路線「松川上小田中線」と連携し、市街地を大きく囲む環状線となることから、大きな期待が寄せられている。(仮称)吉田西条先線の進捗状況等はどうか。
答弁 平成21年に作成した中野市都市計画マスタープランへ、構想道路として位置付け、平成24年の都市計画見直し方針案でも追加候補路線としている。今後は鉄道との交差方式を含め、整備方針等を研究していく。

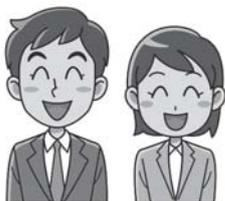
質問 池田市長の任期1期目に策定された「第2次中野市総合計画」、「中野市まち・ひと・しごと創生総合戦略」等に掲げた政策の適切な執行に期待をしている。総合計画及び総合戦略における雇用の創出策及び若者定住策はどのように実施するのか。
答弁 雇用創出策について、農業関係では、農家の法人化支援等を実施し、商工業関係では、各種支援制度を活用し、産業・企業誘致に努める。観光関係では、豊かな自然や農産物の活用等を図り、観光地づくりを進める。若者定住策については、若者や子育て世帯の経済的な負担軽減など様々な角度から検討をする。

市議会を傍聴しませんか

本会議は一般に公開され、個人でも団体でも自由に傍聴できます。

市政を知る良い機会です。みなさん議会傍聴にお出かけください。

なお、日程は議会事務局へお問い合わせいただくか、市のホームページにも日程や市政一般質問の状況等を掲載しております。





老人ホーム高社寮の一部移転について

町田 博文

質問 移転後の敷地をどのように活用するのか。

答弁 特別養護老人ホームは、平成30年3月に移転するが、養護老人ホームは、現状のまま運営される。敷地は一体的に管理していることから、現在のところ移転後の敷地利用については検討していない。

質問 市内在住者の特別養護老人ホームへの入所者数と待機者数の推移はどうか。

答弁 入所者数は、平成24年9月は142人、フランセーズ悠なかの開所後の平成25

年9月は194人、平成26年9月は201人、平成27年9月は204人、平成28年11月は200人である。北信広域連合管外

への入所者数は、平成28年11月時点で39人である。待機者数は、平成24年9月は100人、フランセーズ悠なかの開所後の平成25年9月は78人、平成26年9月は81人、平成27年9月は82人、平成28年11月は63人である。

質問 今後の市内における待機者数の見直しはどうか。

答弁 高社寮の移転後は、20床増床となることから一

時的に減少が見込まれるが、その後、微増していくと予想している。

質問 待機者数を少しでも解消するため、小学校統合後の空き校舎を活用するなどとして、小規模な老人ホームである「地域密着型特別養護老人ホーム」を開設し

たらどうか。

答弁 当該老人ホームは、定員29人以下の小規模な特別養護老人ホームで、市内在住者のみが入所可能であり、施設整備は待機者減少に有効な手段である。平成30年から平成32年までの第7期介護保険事業計画を策定する中で検討していく。

高齢ドライバーの免許自主返納への支援について

実態及び改善策は。

答弁 バランスのとれた生活をおくることを目的とし、部活動等の実施に関する基準を定めた。当該基準の下、部活動等の改善が図られた。

質問 教職員の長時間過密労働の実態は。

答弁 今年度も時間外勤務等は、昨年度と同程度であり長時間労働の傾向にある。

質問 これまでも支援策を提言してきたが、本年11月に交通死亡事故多発非常事態宣言が発令される事態となった。支援策を講ずる機

は熟したのではないかと。

答弁 新年度から市独自の支援策として、シルバー乗車券・温泉利用助成券とは別に、公共交通・タクシ

乗車券、温泉券の共通券の交付を予定している。

質問 現在実施している婚活イベント、結婚相談に加えて、本年10月に開設された「県婚活支援センター」と連携して、県全体での登録・マッチングシステムを活用するなど、行政として

もう一歩前に出て支援した

らどうか。

答弁 県のマッチングシステムの活用等も視野に婚活事業を推進していく。

その他の質問

市長2期目の重点施策について

地方創生関連交付金について

B型肝炎ワクチン接種への助成拡大について

中小企業及び小規模事業者への情報提供等の支援について

臨時福祉給付金について

市内在住の外国人への支援について

童謡唱歌のふるさと「信州なかの音楽祭2016」について

含め検討し、本年末までに結論を得る。」としている。今後、国及び県の動向を注視していく。

質問 国任せではなく、市長として実現に真剣に取り組むべきではないか。子どもの医療費窓口無料化を行った場合の市の負担額は。

答弁 県の補助基準等の条件の下、平成27年度決算へ

学校教育の充実強化について



青木 豊一

質問 就学援助は、対象となる児童生徒の入学前に行うべきではないか。

答弁 保護者からも新入学

児童生徒学用品の入学前支給の要望がある。他市町村の状況も参考に研究したい。

質問 中学生の部活動等の

→
ースで試算すると、約6千100万円が必要である。

市長選挙の無投票及び新年度の具体的施策等について

質問 公約を公表し、市民の提案等を求める考えは。
答弁 市政運営の基本姿勢

は、「開かれた市政」、「公平・公正な市政」である。市民との対話の場を設け、ご意見等に耳を傾けたい。
質問 新年度において、特に重視する施策は何か。
答弁 農業振興施策、観光施策、子育て・教育施策、健康・福祉施策等である。施策ごとの戦略課題に着実

に取り組んでいく。
質問 市民会館建設の具体化を図るとは、どのようなことか。
答弁 財政上での検討ではなく、どのような施設が必要か、話し合いを行うことである。
質問 市民会館建設に関する公約がなく、選挙後に建

設の話が進むのは問題があるのではないか。
答弁 継続的な課題として、市民の皆さんと話し合いを進めていきたい。
質問 ある市のホールは有料入場者数が、計画の約6割と言われている。市民会館の建設については、施設規模や建設の是非を市議会

等と十分検討するべきでは。
答弁 建設について結論づけてはいない。公開討論会を検討のスタートとしたい。その他の質問
住宅・商店の耐震補強支援制度の充実について

市長の政治姿勢について



堀内 臣夫

質問 人口減少・少子高齢化が著しい。社会保障費の増大、納税義務者の減少等の課題にどう取り組むか。
答弁 「中野市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の着実な進展を図り、安心して暮らせる、元気で活力あるまちづくりを進めていく。

新市民会館について

質問 今後の方針はどうか。
答弁 市民の皆様と情報共有の場を設け、本市に相応しい文化施設のあり方を構

築する。
質問 建設に係る財政状況とは何を指すのか。
答弁 基金の残高や市債残高の状況、加えて財政力指数や各種指標の推移である。
質問 施設規模及び用途は。
答弁 素案の段階には至っていないが、重要な要素である。今後十分に検討する。
質問 建設に係る一定の方向性とは何か。
答弁 市民の利用状況やニーズ等を踏まえ、文化施設のあり方を構築する。

家の声はどうか。
答弁 県内の大きな文化施設では、専任アドバイザーの設置や計画段階で各分野の専門家を招へいし、市民を交えシンポジウム等を開催している。本市でも計画策定にあたり、様々な視点や立場の意見をお聴きする。
質問 建設場所へのアクセスはどうか。
答弁 旧中野高校跡地へ建設することとしているが、文化施設の在り方を考えるうえで、アクセス方法なども検討する。

質問 新市民会館建設予定地は、建築基準法上の「用途地域内の建築制限」により、市民会館を建設できないが、今後どのような手続きを行うのか。
答弁 用途地域の変更は困

難なことと認識している。関係機関と協議をしながら方策を検討する。
小学校統合後の空き校舎について
質問 どのように活用するのか。
答弁 今後開催される中野市北部地区及び豊田地域統合準備委員会に加え、地元の見解・要望を聞きながら検討を進める。
住民によるまちづくりの推進について
質問 まちづくりを推進する団体への支援を考えているか。
答弁 地域の活性化について問題意識を共有し、その

解決のために積極的に行動する意欲ある団体に対して重点的に支援をする。
都市計画道路松川一本木線について
質問 補助制度を活用し、事業を進めることとしているが、今後の方針はどうか。
答弁 特定財源の確保を図るべく、補助事業の導入について検討を進めている。補助事業化の目的が付いた段階で地元住民への説明を行いたいと考えている。





市長の政治姿勢について

松野 繁男

質問 6年後、小学校の児童数は、市全体で200名余り減少すると推計されている。少子化対策は喫緊の課題であるが、その取り組みはどうか。

答弁 結婚、妊娠、出産、子育てまで切れ目のない支援体制構築のため、様々な事業を実施する。

質問 将来、増加が懸念される交通弱者への対策として、「小さな拠点」構想の取り組みが豊田地域で始まっている。今後の取り組みはどのようなものか。

答弁 中山間地域に、将来に渡り地域住民が暮らし続けられるよう、生活サービス、交通ネットワークの確保等を「中野市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に位置付けて取り組む。進め方については、先進地視察等を行い検討を行う。

小学校統廃合の進捗状況について

質問 豊田地域の小学校統廃合の位置を豊田中学校としたこと及び修正された敷

地配置図について、改めて議論が必要ではないか。

答弁 小学校の統合位置に関しては、豊田中学校を予定している。今後、統合準備委員会でも小学校の位置及び敷地配置図について、ご意見をお聴きする。

信州中野おごっこフェアについて

質問 今回の開催状況及び来年度以降の取り組みはどうか。

答弁 2日間で約1万人の来場者があり、出展者、来場者からの評価は、総じて好評であったと考えている。実行委員会では、来年度以降も継続して開催したいと考えており、市でも協力的体制を検討し、支援をしている。

満州開拓者殉難慰霊塔等について

質問 慰霊塔周辺の草刈り等の管理状況はどうか。

答弁 草刈りは、関係者のほか、公園一帯の維持管理にあわせ市が行っている。今後とも公園管理に合わせ実施する。

市内農業用ため池の安全対策について

質問 農業従事者の減少により、ため池の維持管理が困難となりつつあるが、どのような安全対策が図られているか。

答弁 水の量を減らした低水管理、あるいは廃止とい

う選択も含め、管理者と協議する。

JR飯山駅以南のSL運行の可能性について

質問 JR飯山駅からJR長野駅方面へのSL運行の可能性はあるのか。

答弁 JR豊野駅までの運行については、別会社であるしなの鉄道「北しなの線」の運行ダイヤに影響を及ぼすこと、戸狩野沢温泉駅と豊野駅間のダイヤ調整が困難であることから難しい。

その他の質問 新市民会館についての きのこミュージアム構想について

大学の「集団行動」について

質問 今年11月21日から25日までの間、大学の「集団行動」の公開練習が、中野市等で行われたが、その見学者数は、



「中野市」の名称変更について

青木 正道

質問 市の名称変更の機運は、平成17年の市村合併時

から現在まで続いている。これは、市名に「中野」が

使われている自治体がほかであり、どこの「中野」であるか分かりづらく、経済活動、観光などに影響が生じていることが理由と考えられる。中野市が全国に認知されるよう「信州中野市」へ名称変更する考えはあるか。

答弁 過去に行った市民ア

ンケートでは、3分の2以上の方が、現状のままで良いとの結果であった。一方で信州中野商工会議所や、ふるさと信州中野会の会員の方からは、市名変更の要望をお聴きしている。今後多くの皆様からご意見をお聴きし検討していく。

答弁 中野市民体育館では、

5日間で約2千人、飯山高
校体育館では、1日間で約
500人であった。
質問 大学の「集団行動」
は、テレビ放映がされるな
ど、昨今、注目を集めている。
市内団体の依頼により、
指導者である日本体育大学

の清原伸彦名誉教授が本市
において講演もされた。今
後の更なる関係強化を期待
しているが、大学生への支
援及びその担当部署はどこ
であるか。
答弁 支援については、様
々なことが考えられる。今

後は、くらしと文化部文化
スポーツ振興課を窓口とし
て対応していく。



(注)
集団行動
学生数十人が隊列を
組み、一糸乱れぬ動き
で行進する演技のこと。
隊列は、様々に変形し
たり、交差するなどし
美しい動きを見せる。

中野市立小学校及び 中学校適正規模等基本方針 について

阿部 光 則



質問 市民説明会、保護者
懇談会等における意見を踏
まえ、中野市立小学校及び
中学校適正規模等基本方針
が決定された。今後の予定
はどうか。

答弁 予定どおり平成29年
1月に統合準備委員会を設
置する。委員会に専門部を
設け、様々な課題について
検討していく。
質問 専門部の委員と全体
会議の委員との間で、課題
の共有が必要ではないか。
答弁 情報共有に努める。
質問 開校時期はいつか。
答弁 北部地区は平成32年
4月、豊田地域は平成33年
4月の予定である。

質問 小学校統合に関する
事業費は検討したのか。
答弁 大まかな目安となる
額を算出し、検討している。

介護保険制度について

質問 制度の改正により、
介護予防・日常生活支援総
合事業が平成29年4月から
始まる。準備状況及び具体
的な移行方法はどうか。
答弁 要支援1・2の方が
利用している介護予防訪問
介護と介護予防通所介護が
総合事業へ移行となる。対
象となる要支援1・2の方
は、認定更新時に順次移行
する。基本チェックリスト

の確認後に該当者となる方
は、要介護認定を受けずに
サービス利用が可能となる。
質問 介護認定者のうち、
総合事業へ移行する人数、
割合及び事業費は。
答弁 平成28年10月末現在、
要介護認定者2千386人のう
ち、移行対象者は52人で約
23%である。事業費は、第
6期介護保険事業計画にお
いて1億8千864万6千円を
見込んでいる。

質問 国では、要介護1・
2の方の訪問介護から生活
援助等を除外する議論がさ
れているが、どう考えるか。
答弁 今後の国の動向を注
視していく。

後期高齢者医療制度につ いて

質問 特例軽減措置の廃止
による影響及び影響が生じ
る方への周知は。

答弁 国では、急激な負担
増となる方へ激変緩和措置
を講ずることとしている。
長野県後期高齢者医療広域
連合で国同様の見直しがあ
された段階で、市の広報、
ホームページ等で周知する。

子育て支援策について

質問 人口減少・少子化対
策として、子育て支援策の
充実が必要である。第2子
からの保育料無料化を行っ
たらどうか。
答弁 3歳未満児の入所が
多くなっており、保育士の
確保が難しくなっている。
第2子からの無料化は、保
育士の確保が一層難しくな
り、現在は考えていない。

その他の質問

**信州中野おごっこフェア
について**

議会インターネット 録画中継



市議会では、本会議のインターネット録画中継を行っています。
インターネット録画中継は、パソコンから、いつでも本会議の様様を
視聴することができます。ぜひご覧ください。

視聴方法 中野市議会ホームページから「中野市議会中継」にアクセス
(パソコンのみ閲覧可能です。)

中野市議会ホームページ <http://www.city.nakano.nagano.jp/gikai/>

配信している議会中継 平成27年3月市議会定例会分～

配信時期 定例会・臨時会終了後、約2週間後に配信します。



中野市の名称について

清水正男

質問 市長の現在の見解はどうか。

答弁 様々な意見もあることから、市外在住の中野市出身者や市内事業者などへ

のアンケート調査の必要性も含め、今後、引き続き検討していく。

質問 「信州中野市」と市名変更をした場合、「信州

中野市」のブランド価値をどのように考えるか。

答弁 「信州なかの産」を掲げて出荷・販売している農産物等もあり、一定の効果があると考えます。

ふるさと寄附金について

質問 これまでの実績は。

答弁 平成26年度は5千858万余円、平成27年度は2億8千919万余円の寄附があつ

た。

質問 実質的な収支は。

答弁 平成26年度は4千86万余円、平成27年度は1億8千136万余円の黒字となっている。

質問 寄附金はどのように活用したのか。

答弁 平成27年度は、8事業に、合計2億7千534万5千円を活用した。

質問 人口減少、遊休荒廃農地の増加、農業従事者の

減少が大きな課題である。これらの解消を図るため、農業後継者や新規就農者が行う農地確保、農地整備、住宅確保、農業用機械購入等に対して、ふるさと寄附金を原資とした無利子の融資を行ってはどうか。

答弁 ふるさと納税の制度動向なども勘案しつつ、提案の内容を参考にしながら寄附金の活用を研究していく。



教育行政について

永沢清生

質問 統合予定の小学校間における、児童交流の状況は。

答弁 社会見学や高原学習海の学習などの校外活動を合同で実施したり、同学年の交流や6学年の児童が合同で中学校体験学習をするなど、積極的に交流を実施している。

質問 保護者の不安解消のため、児童交流時の参観や

P T A間の交流の計画はあるか。

答弁 P T A合同役員会やP T A地区懇談会を開催し交流に努めている。

質問 児童一人ひとりへのきめ細やかな指導は、学校規模が大きくなるうとも、変わらず実施すべきである。そのための教職員交流の状況は。

答弁 中学校区ブロックご

との職員研修や授業研究会を実施し、同じ中学校区での教育内容について、共通理解を深めている。教育委員会からも、統合を見据えた交流を積極的に実施するよう校長会にお願いしている。児童、保護者、教員の交流計画については、統合に向け、今後も統合準備委員会の中で協議していく。

質問 現在の信州型コミュニティスクールの各学校の取り組み状況は。

答弁 信州型コミュニティスクールとは、保護者や地域住民が学校運営に参画し、教育環境の支援を行うシステムであり、現在、市内全小中学校でシステム構築の

準備を進めている。

質問 信州型コミュニティスクール学校運営委員会の設置状況は。

答弁 信州型コミュニティスクール学校運営委員会を平成29年度に全小中学校に設置することとしており、現在、運営費用等について試算している。

質問 保護者や地域住民が参加する信州型コミュニティスクールは、子どもの地域への愛着を深めたり、地域住民の生きがいや学びの場づくりに大きな意味を持つ。この活動は、中野市が進める「ふるさと教育」の根幹を成すものと考えられるが、地域住民の理解は得

その他の質問
防災行政無線について
農業振興について

られているか。

答弁 地域全体で子どもを育てるといふ観点は、とても大切なことである。信州型コミュニティスクールの仕組みを広く地域の皆様に情報発信し、理解していただき、多くの方に学校運営に参画していただけるよう推進していく。



総務文教委員会報告

総務文教委員会に付託された条例案5件、予算案1件について、11月30日及び12月9日に審査しました。

主なものは、条例案では、中野市職員の退職手当に関する条例の一部を改正する条例案で、雇用保険法の改

正に伴い、本条例における失業者の退職手当の規定を整理するため、所要の改正を行うもので、原案どおり可決されました。

予算案では、平成28年度中野市一般会計補正予算(第4号)について、人事院勧告に準ずる給与の増額を含む人件費の確定見込み及び各種事業の進捗に伴い、各事業費の確定等による変更、国の平成28年度補正予算において、「臨時福祉給付金(経済対策分)」の支給が実施されることに伴う新たな対象事業の追加、財

源組替等の歳入歳出予算の補正を行うもので、補正総額5千340万円を追加し、補正後の予算総額は23億9千747万8千円となるもの。

歳入では、国庫支出金1億4千49万7千円の増額、財政調整基金繰入金8千836万5千円の減額等。

民生環境委員会報告

民生環境委員会に付託された条例案3件、予算案4件、事件案2件について、12月9日に審査しました。

主なものは、条例案では、中野市保育所条例の一部を改正する条例案で、市内新野地籍に開所する新たな保

育所の名称及び位置を定めるため、所要の改正を行うもの。中野市印鑑条例の一部を改正する条例案については、個人番号を利用したコンビニエンスストア等での多機能端末機による印鑑登録証明書の交付を行うた

め、所要の改正を行うもので、いずれも原案どおり可決されました。

予算案では、平成28年度中野市一般会計補正予算(第4号)について、歳出のうち民生費では、臨時福祉給付金事業(経済対策分)1億879万8千円の増額等であり、原案どおり可決

されました。

事件案では、中野市し尿等投入施設の整備工事委託に関する基本協定の締結について、北信保健衛生施設組合豊田衛生センターに替わる施設として整備を行う、し尿等投入施設の整備工事を委託するため、日本下水道事業団と協定を締結する

経済建設委員会報告

経済建設委員会に付託された条例案1件、予算案3件、事件案2件について、12月9日に審査しました。

主なものは、条例案では、中野市民芸品等生産施設条

例を廃止する条例案で、高野辰之記念館に併設されている中野市豊田ふるさと民芸館の施設を活用し、高野辰之記念館を充実させるものであり、原案どおり可決

されました。

予算案では、平成28年中野市一般会計補正予算(第4号)について、歳出のうち農林水産業費では、農産物消費拡大キャンペーン事業負担金300万円の増額等であり、原案どおり可決され

ました。

そのほかの予算案2件及び事件案2件については、いずれも原案どおり可決されました。



■意見書

〈可決された意見書〉

(関係行政庁に提出)

社会保障制度における高齢者の負担増計画の中止を求める意見書

安倍内閣は2015年6月に閣議決定した「経済財政運営と改革の基本方針」で、16年度から3年間で社会保障費の「自然増」を1兆5,000億円程度に抑え込むことを盛り込んでいる。高齢化や技術進歩などによる自然増は年1兆8,000億円程度といわれ、それを機械的に5,000億円に抑制しようとするものである。

それに基づき厚生労働省の社会保障審議会の部会で医療・介護の利用者負担のあり方、保険給付の範囲の制限などについて多岐にわたる項目が提案され、具体化が進んでいる。

安倍内閣は、削減を推進するスケジュールを明記し

た「工程表」を昨年末に閣議決定しており、厚生労働省の審議会で示されている案のほとんどは工程表の具体化である。

安倍内閣が年末の予算編成などに向け、初めて介護保険に3割の利用料負担を導入する案を示し、国民の不安が広がっている。3割負担の対象は「現役並み所得」であるが、さらに広がることも心配される。現在においても負担の重さに利用者・家族から悲鳴が上がっているのに、さらに負担増となれば高齢者の暮らしは成り立たなくなる恐れが増す。

介護保険で要介護1、同2の「軽度者」向け生活援助サービスを保険給付から外すなどの案は、国民の批判の広がりで見送られた。しかし、厚生労働省は新たな利用抑制案などを持ち出したうえ、負担増と給付減を進めようとしている。

医療・介護制度の見直しにおける焦点は、医療では後期高齢者医療制度の保険

料軽減特例措置の縮小又は撤廃、70歳以上の高齢者の高額療養費の月額上限引き上げ、介護では「高額介護サービス費」の月額上限引き上げなど、こうした見直しは、高齢者をはじめ国民の暮らしに重大な影響を及ぼすものである。

よって、中野市議会は、国に対し、社会保障制度における高齢者の負担増計画の中止を強く求めるものである。

■決議

金子高幸議員に対する議員辞職勧告決議について



議会改革検討委員会

中野市議会では、時代の変化への対応を目的とし、市民の方から市議会に対する率直なご意見をお伺いするため、「中野市議会に関するアンケート」を平成28年10月6日から11月7日までの間、実施いたしました。

アンケートは、無作為抽出により市内在住の18歳以上の方、2千名を対象に実施し、511名の方から貴重なご意見をいただきました。アンケートにご協力いただきました皆様、大変ありがとうございました。

アンケートの集計を見ますと、年代が上がるに連れ多くの皆様から回答をいただきました。しかし、10代・20代の方の回答割合が低く、次代を担う方々に注目

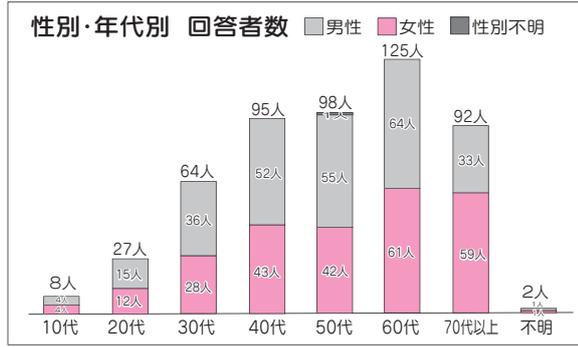
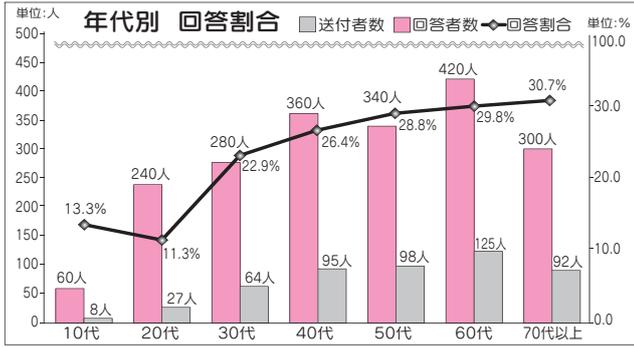
していただける議会活動の必要性を改めて感じたところです。

ご回答では、議員活動を評価される意見がある一方「市議会に関心がない」、「議員の活動がよく分からない」等のご意見も少なからずありました。

今後は、アンケート結果を参考とさせていただきます、より開かれた議会等を目指し、議会改革検討委員会において、さらに検討を進めて参ります。

今回の市議会だよりではアンケート全11問のうち、グラフでお示しできる9問の結果をご報告いたします。

アンケート結果の詳細につきましては、市議会ホームページへ掲載いたしますので、ご覧ください。



問1 性別
問2 年齢

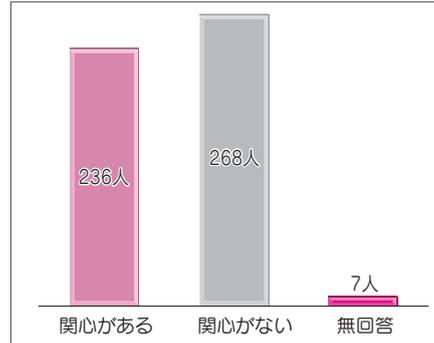
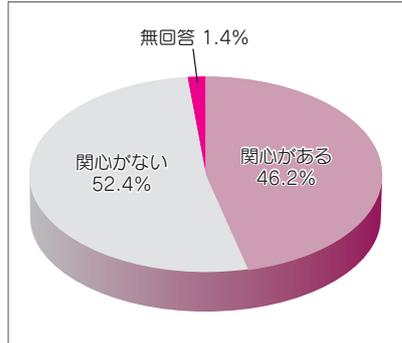
問3 中野市議会に関心
がありますか

問4 中野市議会を傍聴
したことがありますか

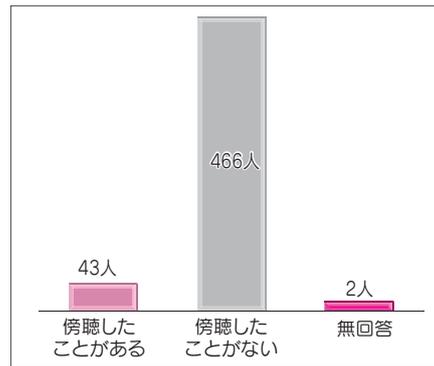
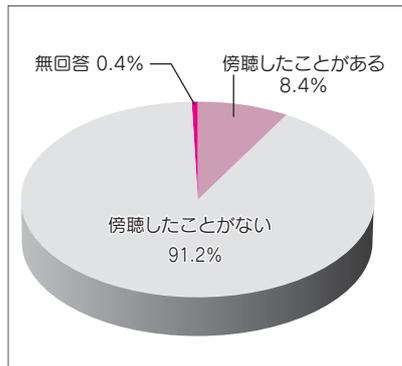
問5 中野市議会のイン
ターネット中継（録
画）及び市公式ホ
ムページを視聴した
ことがありますか

問6 中野市議会だより
を読んだことがあり
ますか

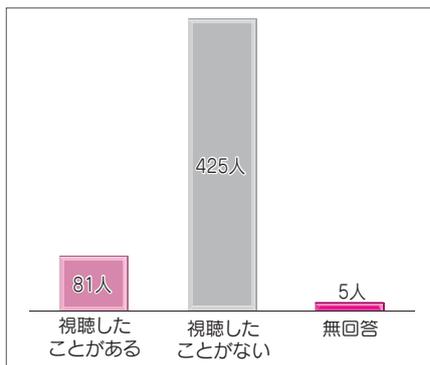
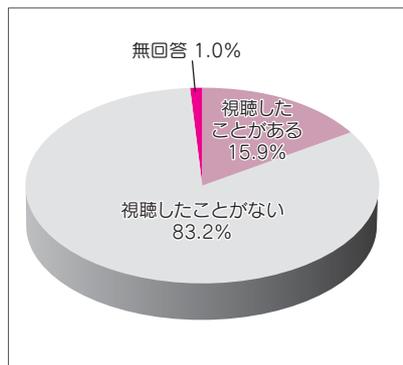
「関心がない」と回答された方が、半数以上を占めた。46.2%でした。年代が上がるにつれ、「関心がある」との回答が増加し、60歳代では59.2%、70歳代以上では69.6%でした。



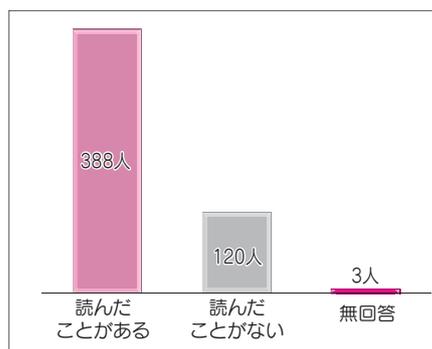
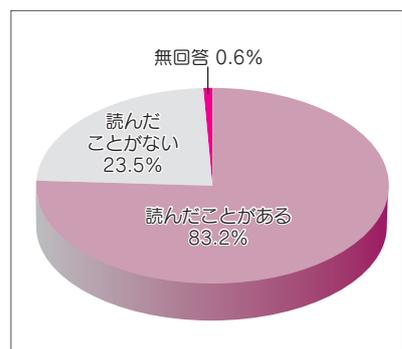
「傍聴したことがない」と回答された方が91.2%であり、10歳代及び20歳代では、傍聴したことがある方がいませんでした。30歳代から50歳代までの方では、傍聴したことがある方は、4.7%でした。



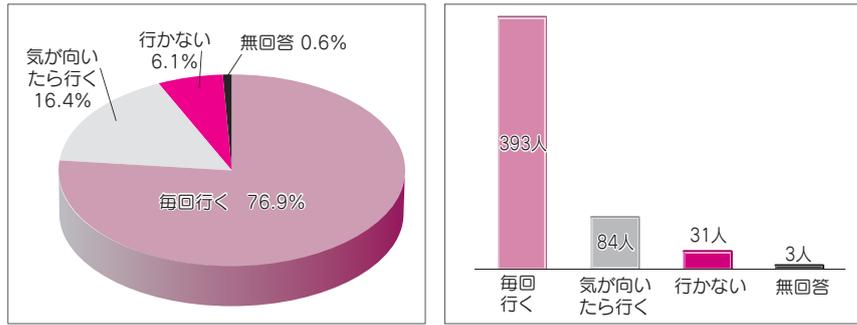
「視聴したことがない」と回答された方は、83.2%でした。インターネット中継及び市ホームページを通じての情報取得は、少ないことがうかがえます。



「議会だよりを読んだことがある」と回答された方は、75.9%でした。10歳代及び20歳代で「読んだことがある」方は20.0%ですが、50歳代以降の年代では、80%を超えています。

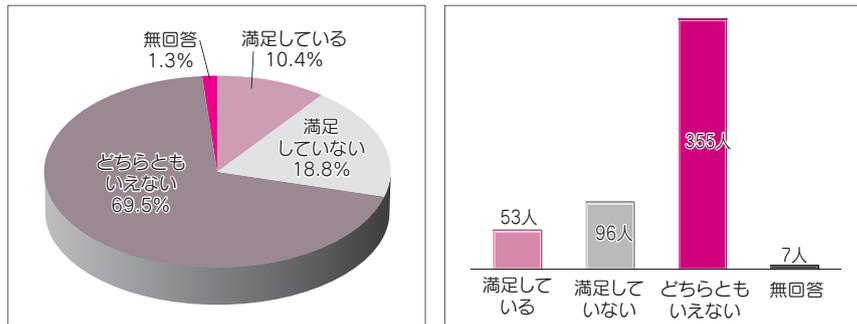


問7 中野市議会議員の選挙に行きますか



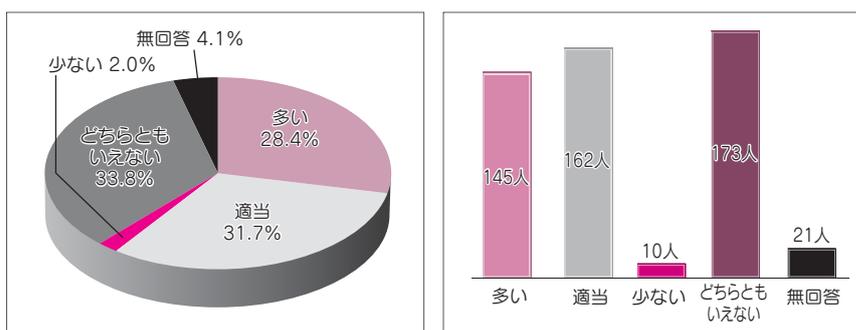
中野市議会議員の選挙に「毎回行く」と回答した方は、76.9%でした。10歳代及び20歳代では、「毎回行く」と回答した方は34.3%でしたがそれ以外の年代の合計では80.1%でした。

問8 中野市議会議員の活動に満足していますか



「満足している」と回答された方は、10.4%でした。「満足していない」と回答された方は18.8%、「どちらともいえない」と回答された方が69.5%と最も多い結果でした。

問10 中野市議会議員の定数が20人であることについて、どう思いますか



中野市議会議員の定数20人について、「多い」、「適当」及び「どちらともいえない」と回答された方が、それぞれ30%前後の結果でした。

第4代後期
議会だより
編集委員会名簿
(順不同)

委員長	副委員長	委員
松野 繁男	原澤 年秋	荻澤 孝幸
堀内 臣夫	宇塚 千晶	保科 政次
青木 正道	阿部 光則	永沢 清生
町田 博文	〃	〃
〃	〃	〃
〃	〃	〃
〃	〃	〃
〃	〃	〃



あとがき

毎年この時期になると「今年の積雪量はどうなのか」、そんな声が聞こえてきます。昨年の降雪量の少なさは、近年にないものであり、雪かき等の重労働から解放され喜んだ方もいる一方、除雪業務に携わる方からは、嘆きの声も聞かれました。カマキリの巢の高さで積雪量を予想する方もおられます。今シーズンあるところでは、2メートルもの高さに巣が作られたそうです。

今年の積雪はどうであるか、とても気になる場所です。

中野市の姉妹都市である北茨城市の魚港では、今まで獲れたことのない魚が水揚げされるようになり、「地球温暖化による影響では」と話題になっているそうです。

昨今の異常気象から考えても、関連があるかもしれないかもしれません。